

表の見方

「二．資料編」以下の

(一)『文海宝韻』電腦処理

(二) 索引

1. AA研コード順西夏文字検字索引
2. 子音順西夏文字検字索引
3. 母音順西夏文字検字索引
4. 漢語訳ピン音検字索引
5. 西夏文字部首検字索引

では、コンピュータ処理によって編集がなされている。

これは、各種検索の参照により、今後の西夏語の研究に便宜を提供することを目的としており、現研究段階において、西夏文字の解析に必要なと考えられるさまざまな工夫が示されている。ここではまず、「(一)『文海宝韻』電腦処理」の1行を例にとって表の見方を説明する。

(1) 文番号

表中では、各行の左端の7～10桁の数字によって、『文海宝韻』の本文中のアドレスが示されている。すなわち、「字典」である本文の見出し語にあたる「大字」は

1桁目……………平声、上声・入声、雑類の別を表し、

2～3桁目……………頁を示したあと、

ピリオド(.)を入れ、

4桁目……………1でA面を、2でB面を表し、

5桁目……………行を、

6～7桁目……………その西夏文字が何番目の「大字」であるかを表す

の7桁で示され、この「大字」の附属にあたる「小字」は、さらに

8桁目……………Sで構造(structure)を、

Mで意味(meaning)を、

Eで解説(explanation)を表す。また、

Aで《文海》からの追加(additon)を示す。

9～10桁目……………その西夏文字が何番目の「小字」であるかを表す。

を加えた10桁で示し、この文番号を見ただけでも、「大字」と「小字」の区別、「構造」「意味」の区別などがつくようにした。

(ここで、『文海』からの補充の「大字」に対する、文番号のあて方が問題となる。文番号がはそれ自体が、原文でのその文字の位置(アドレス)を表すように設定したので、これは動かしがたい。そこで『文海宝韻』を生かし、『文海』からの補充はあくまでも“解説”として扱うしか方法はなかった。)

(2) AA研コード

スペースのあとの次の5桁の数字はAA研のコードである。

(3) 西夏文字

その後、西夏文字が来る。AA研コードの前後、及びその西夏文字の前後には必要に応じて、符号を付してある。すなわち、

大字

代表字	¶ 夏
普通の大字	夏
《文海》からの追加(addition)	† 夏
序文の大字	\$ 夏
推定字	夏?、\$ 夏? など
《文海宝韻》だけにあつて	! 夏
《文海》にはなかった箇所	
あるいは読めなかった箇所	

小字

構造(structure)	[夏]
意味(meaning)	「夏」
解説(explanation)	(夏)
推定字	[夏]?、「夏」? など

その他、「大字」についても「小字」についても、文字があることはわかっているが、不明な個所には□のマークを入れておいた。

(4) 漢字転写による西夏字推定音

《同音》の分類に従い、

- | | |
|-----------|-----------|
| ①重唇音 | 「重」と表記する |
| ②軽唇音 | 「軽」と表記する |
| ③舌頭音 | 「舌」と表記する |
| ④舌上音 | 「舌上」と表記する |
| ⑤牙音 | 「牙」と表記する |
| ⑥齒頭音 | 「齒」と表記する |
| ⑦正齒音 | 「正」と表記する |
| ⑧喉音 | 「喉」と表記する |
| ⑨来日音(舌齒音) | 「来」と表記する |

の声母の区別を示したあとに、〔 〕内に推定音を漢字で示す。なお〔 〕外の「切」は反切を示す。なお、索引も上記の『音同』の分類法に従った。

(5) 音韻

写本『文海宝韻』のままではなく、刻本『文海』を参考に若干の修正を加えた韻母である。

(6) 漢語訳

< >付きで示したものは、<表音>、<訳音>、<姓>、<地名>、<獣名>、<鳥名>、<植物名>、<草名>、<菜名>、<虫名>などである。

西夏音あるいは漢音を引用している部分は、本来の西夏文字の意味は表示せず、そのまま西夏音あるいは漢音の推定音をここに表示した。その際、上記の(4)にあわせ〔 〕でくるんだ。

『文海宝韻』原文では、代表字のあとに西夏文字の数字で、韻を表してある。入力もそれに従い、代表字の前に『のマークをつけ、この漢語訳の位置に【 】で韻数を表した。

(7) ピン音

< >、〔 〕付きのものも、< >、〔 〕をつけたままで音におきかえたので、索引では< >、〔 〕付きのものが前に固まって出現する。

【 】の部分はピン音をつけない。

また部位と表す述語「左」、「右」、「頭」、「下」、「中」なども該当する英語の頭文字だけを取り「L」、「R」、「H」、「B」、「C」などとして、後に固まって出現する。

(8) 部首

史金波教授による画数と筆の順を組み合わせた、452の部首に従って分類した。最初の3桁がその部首分類、－(ハイフン)のあとの2桁が画数、－(ハイフン)のあとの2桁が筆の順。

なお、この部首分類はもともと、『音同』と比較対照し、同部首・同画数内部の順序はほぼ『音同』で確認した順序に従っている。よって『音同』では確認できない『文海宝韻』だけが収録する西夏文字については99という数字で表現しておく。

なお、(二)の各索引は、上記の8つの項目から以下の必要な項目だけを抜き取ってある。

1. AA研コード順西夏文字検字索引……文番号、AA研コード、西夏文字
2. 子音順西夏文字検字索引……文番号、西夏文字、漢字転写推定音
3. 母音順西夏文字検字索引……文番号、西夏文字、音韻
4. 漢語訳ピン音検字索引……文番号、西夏文字、漢語訳、ピン音
5. 西夏文字部首検字索引……文番号、西夏文字、部首コード